



市民の声を**正**しく**美**しく伝え実行！！

池上まさみ 通信

平成29年度予算成立

2017年4月発行 発行者 池上まさみ後援会
〒321-4323 真岡市東沼1564-2
TEL・FAX 0285-82-6324
E-mail: yume@ikegami masami.com

本市の平成29年度予算は、一般会計322億9,101万円、特別会計198億2,930万円、水道事業会計22億7,377万円の合計543億9,320万円と昨年に対して一般会計で2.0%減、特別会計で0.5%減、水道事業で0.2%増の予算編成となりました。一般会計の歳入のうち、市税は前年度対比で微増するものの、地方交付税や県支出金の減額が影響し、特別会計では、高齢化時代において介護保険の給付費が7.5%増と見込まれるためのものであります。誰もが、安全で、安心して住みやすい街づくりの一助となるために、何かありましたら皆様のご意見・ご要望をどんどんお寄せください。

平成29年度 主な新規事業及び注目事業

公共施設事業

- *庁舎建設事業費 2億7345.8万円
- *公共施設再配地計画策定事業費 757.8万円
- *北真岡駅南口改修実施設計委託費709.3万円
- *芳賀赤十字病院施設整備補助 3億7,500万円

教育環境の充実

- *総合学力調査委託費 869.4万円
- *学校統合準備事業費(4校) 1,222.4万円
- *小学校外国語活動教員研修 89.3万円

観光・工業の振興

- *チャレンジショップ支援補助金 680万円
- *真岡バル(まちなか飲食店食べ歩きイベント)

農業・林業振興事業

- *イノシシ捕獲・狩猟免許取得等補助金 32万円
- *日本一いちごの産地強化事業 1,227.4万円
- *新食肉センター整備補助金 283万円
- *新食肉センター整備事業出資金 650万円

地域情報通信基盤整備事業

- *光ケーブル化に伴う宅地内再引込工事委託費

福祉・子育て・健康向上事業

- *寝たきり者等紙おむつ購入補助費支援 (月3,000円に) 1,472.8万円
- *こども医療費給付金(現物支給15歳迄に拡大) 3億4,638.5万円

登壇させて頂きました。2/20～3/14



2月定例議会は、20日（月）から3月14日（火）に渡っておこなわれました。その中で執行部からの議案のうち、平成29年度真岡市一般会計予算から真岡市まちのお休み処もめん茶屋に関する経費987万円を除く322億9012万9千円と真岡市公平委員会委員の選任及び人権擁護委員の候補者の推薦を含む39議案が可決されました。

質疑・一般質問は、27日・28日に7名の議員が登壇し、私は1日目に登壇して、次の4件について執行部の考えを伺いました。

再質問につきましては、紙面の関係で割愛しております。

1 件目 福祉行政の向上について

(1) 民生委員・児童委員について

- ①民生委員・児童委員の現状について（定員、平均年齢、対応世帯数、活動費等）
- ②成り手不足について、どう分析しているのか。また、どのように対応するのか
- ③地域の人々に、委員の新任・再任者を含め、どのように周知していくのか。

(2) 障がい者の雇用について

- ①2018年4月の障害者の雇用の促進等に関する法律の一部改正を含め、今後どのように支援していくのか。

* 民生委員・児童委員については、本市の定員（151名）を100%満たしており、平均年齢は県に対し若干高く66歳であり、一人当たりの対応世帯数は217世帯である。活動費は、年額5万9000円に本市独自で3,800円を加算している。

* 成り手不足は、各区長さんに推薦していただいているが、取り巻く環境が厳しく新任の候補者の確保が難しいことから地域住民に理解を求め、周知・啓発に努めていきます

* 周知については、各区長さんに地域内の皆さんに紹介を依頼するとともに、市広報及び、新たに、市のホームページに民生・児童委員の名簿を掲載し、更に市内イベントでのPRパンフレット配布や創立100周年記念誌、記念講演会開催等を展開してまいります。

* 障がい者の雇用促進等の法律の改定から、障害者の法定雇用率の向上に努め、ハローワークと連携を図るとともに、市内の障害福祉サービス事業所と協力・支援をしていきます。

2 件目 魅力あるまちづくりについて

(1) 選ばれるまちのPRについて

- ①自動販売機にシールラッピングを活用した宣伝を導入したらどうか。
- ②ご当地ナンバー発行の導入計画はあるのか。

(2) ものを大切にする宣言都市について

- ①現時点でリサイクルの現状は、近年どのように推移しているのか。
- ②今後の具体的にリサイクル等について、どのように推進・見直し等をしていくのか。



* 自動販売機のラッピングは、無料の業者もあるが入札の制限もあるので、現時点では、導入を考えていませんが、今後、調査・研究してまいりたい。

* ご当地ナンバーは、全国 1741 自治体の内、441 自治体で導入され県内では、9 市町が導入されています、プレートの製作費が 200 円から 400 円と 2 倍にかかり、選択も自由のことから、導入計画はない。

* ものを大切にする宣言都市についての内、近年は、リサイクル等の資源化率は、13.7% から 12.8% と減少の傾向である。

* 今後の具体的にリサイクル等の見直しは、現在小型家電リサイクルを開始したところであり、衣服のリサイクル等（おさがり）にも、考えていない。

3 件目 教育行政について

(1) 小・中学校の一貫教育について

① 小中一貫教育の効果をどのように考えているのか。

② 将来の導入計画はないのか。

(2) 不登校対策・いじめの対策について

① スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活動状況・効果はどのようになっているのか。

② いじめに対する現状の対応として、未然に防ぐために、どのようにしているのか。また、発見した時の対応マニュアル・仕組み等はあるのか。

(3) 郷土伝統行事の見学について

① 郷土愛の向上のため、社会科見学の授業として、伝統行事に児童・生徒時代から触れさせる考えはないのか。



* 小中一貫教育の効果は、中学校に対する不安を覚える児童の減少や異学年の交流による自尊感情や規範意識の向上、教員の指導方法の改善意欲や協力体制への意識向上が認められ一部では効果が上がっているが学校規模・施設・地域実情・児童生徒の実態を含め、将来の導入計画については慎重に検証していくものと考えている。

* スクールカウンセラー（6 名）・スクールソーシャルワーカー（1 名）は、教員と異なる専門性を生かして不登校対策やいじめに効果を上げている。

* いじめに対しての未然対策として、Q-Uテストやスキル教育、そして道徳教育に力を入れている。いじめの対応として、「学校いじめ防止基本方針」に則り対応している。

* 郷土愛向上の事業としては、各学校の実践を尊重して更に、意識や自覚が養われるように、ふるさと意識の醸成に努め、地域全体で指導していく。

4 件目 公共施設等総合管理計画について

(1) 小学校の統廃合後に活用について

① その後の庁舎内会議の進捗は、どのようになっているのか。

② 4 校のうち 1 校をモデル事業として、地域に依頼してはいかがか。

③ 廃校後の管理体制は、予算を含めどのように考えているのか。

(2) 更新・解体・売却等の見えるかについて

① 更新・解体・売却等の優先順位は、どのように市民に周知・徹底するのか

② 売却の PR 方法は、どのように考えているのか。

- * 小学校統廃合後の庁舎内会議は、2回開催し利活用や売却の検討に加え、調整区域内の先進事例についての研究を進め、H29年度も継続していく。
- * モデル事業については、公共施設等総合管理計画の基本方針を踏まえ、地元自治会からの提案される利活用について検討していく。
- * 廃校後の管理体制は、一時的に行政としての目的を持たない普通財産として普通財産として、適切な維持管理を実施していく。
- * 更新・解体・売却の優先順位は、真岡市公共施設再配地計画で当面に10年間の計画について、庁内検討会議や市民会議で検討し、順次ホームページ等で周知していく。
- * 売却のPR方法については、売却情報を市ホームページ及び、ウイークリニューースもおかの掲載し。栃木県宅地建物取引業協会等へ情報提供していく。

市民クラブ会派・無会派視察報告 1/24~26



1月24日(火)から26日(木)にかけて、2泊3日の日程で徳島県勝山町及び和歌山県田辺市を視察してまいりました。勝山町は、葉っぱビジネスによる町おこしについての現状と今後の展望について、一方田辺市においては、廃校舎利用を地域挙げての事業と捉え、レストランや宿泊施設そして、地産の果物の販売まで手掛け、国や県の補助金を上手に活用しておりました。視察結果を今後の市政運営の見張り役として、本市にも提案等を対応していきたいと思っております。

皆さんの疑問にお答え致します。教えて！その疑問？コーナー

【質問！！】

真岡市の地域公共交通の利用現状及び補助金は、どれくらいなのか？

真岡市のシンボルであるSLに新しくD51が展示されて話題となった真岡鉄道を含め、宇都宮東武行きやJR石橋駅行きの民間の路線バス・市内を走るいちごタクシーやコトベリー号の輸送実績は、どのように近年推移しているのか？の声が聞こえてきましたので、調査しました。

【お答えいたします！！】

真岡鉄道の1日の平均利用者は、3,000人以下で7割が高校生で年々減少し、H27年補助金は約943万円です。SLの輸送実績は年間3,3万人と年々微増の傾向です。路線バスは、年間52万7000人で約3割が定期利用で、H27年度は203万円の補助金を交付し、いちごタクシーは、H27年度の1日当たり73.9人とH25年度の82.8人から減少傾向で、65%が病院への移動手段として利用している。火と金曜日が混雑している。コトベリー号は、H27年度の1日当たり54.8人と利用者は増加の傾向で、H27年度補助金は、1,118万円であり、若干の減額で推移している。